

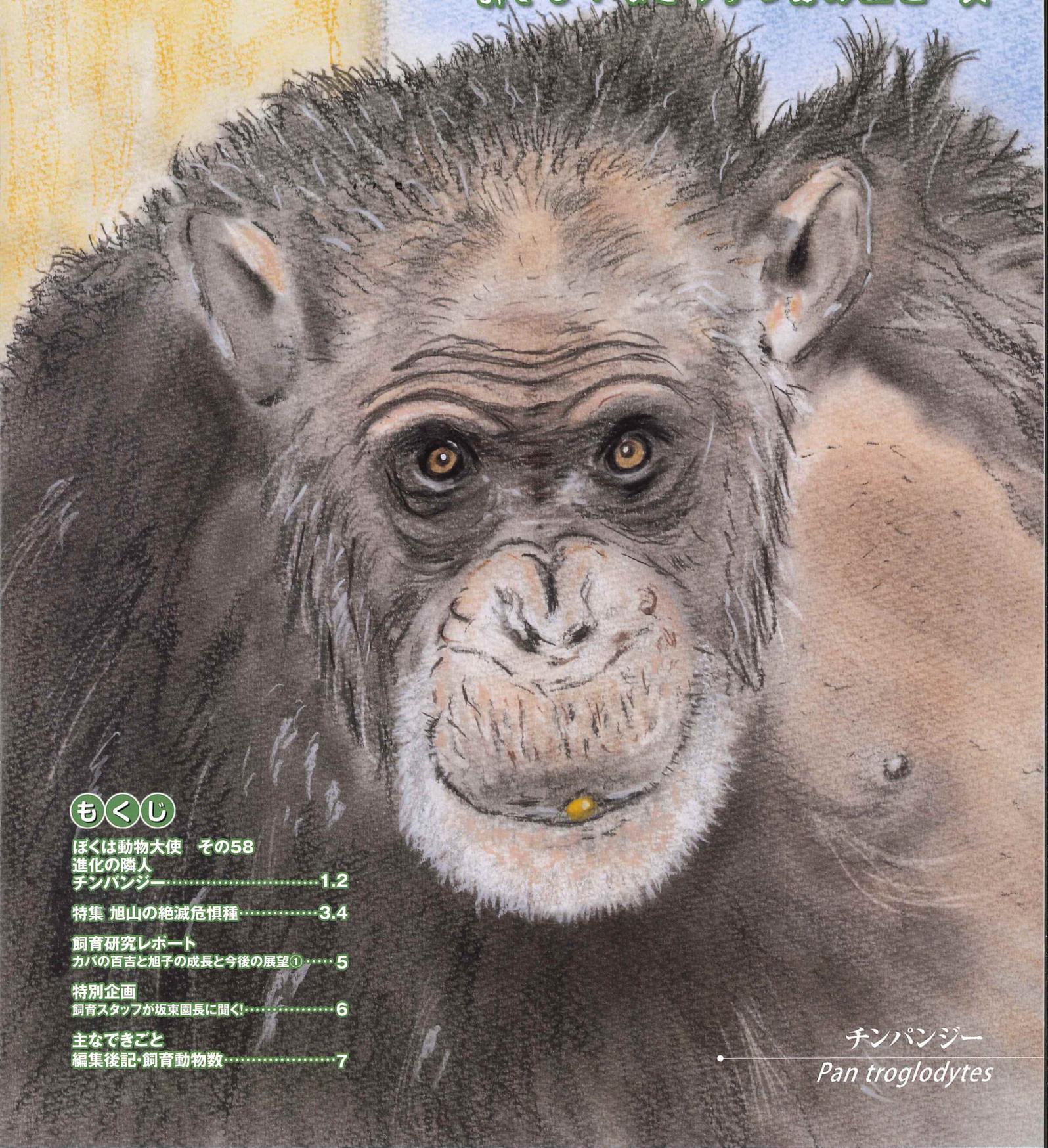


NO. モユク・カムイ 97

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 April 2018

ASAHIYAMAZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース



もくじ

ぼくは動物大使 その58

進化の隣人

チンパンジー.....1.2

特集 旭山の絶滅危惧種.....3.4

飼育研究レポート

カバの百舌と旭子の成長と今後の展望①.....5

特別企画

飼育スタッフが坂東園長に聞く!.....6

主なできごと

編集後記・飼育動物数.....7

チンパンジー

Pan troglodytes

チンパンジー

学名 *Pan troglodytes*
 英名 Chimpanzee
 分類 霊長目 ヒト科

西・中央アフリカの主に森林地帯に生息。生息地によって4亜種に分けられる。20頭程度の群れで暮らしリーダーオスを中心に複数の大人のオスメスとその子供たちで構成され、時には100頭もの群れになることもある。

サルの仲間の中でも「類人猿」とよばれ、知能が発達していて道具を使うことができる。DNAレベルでは私たちと1~4%しか変わらず、最もヒトに近い動物だ。

食用目的の狩猟や森林の開発などにより個体数が減少していて、絶滅危惧種に指定されている。

チンパンジーの分布



道具を使う

アリの巣に枝を突っ込んでそれにくっついてくるアリを食べる「アリ釣り」や石を使って硬い木の実を割って食べる「ナッツ割り」などができる。道具の使い方はすむ地域によって違い「ここではアリは釣るが、ナッツ割りはしない」など地域ごとで継承されていく。旭山では夏期に、枝を使いジュースを舐める行動展示をしています。

ぼくは動物大使 その58

体 オスで体長80~90cm、体重60~80kg、メスは一回り小さい。

成長 野生下では8~11年で性成熟。14~5才で初産。飼育下では3~4年早い。妊娠期間は約230日。基本1産1子。

力 握力は200kgともいわれている。

歩行 二足でも歩けるが、基本4足歩行。手指の関節を地面につけて歩く。(ナックルウォーク)



コミュニケーション

チンパンジーの朝はリーダーへのあいさつから始まる。これをやり忘れるとボコボコにされる。ただし3才くらいまでの子どもは見逃してもらえる。代わりにそのお母さんが「ちゃんと教えておけよ!」とばかりに怒られる。

日中はグルーミング(毛づくろい)をして親睦を深める。顔で表情をあらわし、おびえている時は歯茎を出してキーキー鳴いたり、わき腹をくすぐると「ハッハ」と笑う。

進化の隣人 ~チンパンジー~

色 毛は黒色。あごのまわりに白い毛が見られる。皮膚は成長に伴い黒っぽくなる。

食性 雑食。果実や木の葉、樹皮など植物質のものが中心。昆虫やアリ、時には小型のサル類や草食獣を食べることもある。

寿命 飼育下では50年ほど。野生ではもっと短い。

尾 類人猿のゴリラ・オランウータン・チンパンジー・テナガザルには尾がない。

尻 白い毛があるうちはこども。メスは発情がくると陰部が大きく腫れる。

旭山のチンパンジー (現在2群れ13頭)

キーボ群れ



キーボ(オス)
1968.8.30生



フルト(メス)
1980.8.16生



イブ(メス)
1990.12.24生



キャロ(オス)
2008.1.18生



ハルキ(オス)
2013.4.26生



ガッツ(オス)
2015.4.11生

ピースケ群れ



ピースケ(オス)
2001.12.22生



ミコ(メス)
1975?生



チロ(メス)
1979.6.4生



ニコル(メス)
2018.3.16
に生まれたよ!



タケル(オス)
2006.2.24生



コースケ(オス)
2008.8.1生



ニナ(メス)
2013.1.27生

チンパンジーのエサ1日分(ピースケ群れの場合)

サツマイモ	2kg	リンゴ	500g	レタス	1玉
キャベツ	1.8kg	バナナ	500g	サル用ペレット	
ニンジン	1.7kg	玉ねぎ	450g		500g
ハクサイ	1.1kg	ゴボウ	400g	煮干し	少
ジャガイモ	900g	ピーマン	220g	落花生	少
オレンジ	600g	トマト	220g	ヤクルト	1本
長ネギ	550g	ブドウ	110g	チーズ	1個
セロリ	550g	キウイ	3玉		など

大人一頭あたり約3,200kcalです。



特集 旭山の絶滅危惧種

みなさんは絶滅危惧種と聞いて、何を思い浮かべますか?ジャイアントパンダやコアラでしょうか?もしかしたらニュースで「クロマグロやウナギが絶滅するかも?」と見たかもしれませんね。

そもそも絶滅危惧種って何なのでしょう?そしてどうして絶滅するのでしょうか?この特集では旭山で飼育している絶滅危惧種を紹介しながら、その原因などを紹介したいと思います。

絶滅危惧種とは?

絶滅危惧種とはその名の通り、絶滅の危機にある生物種です。では、誰がそれを決めているのでしょうか?絶滅危惧種のリストを「レッドリスト」といい、そのリストが載った図書が「レッドデータブック」になります。そのレッドデータブックは世界規模の種は世界自然保護連合(IUCN)が作成し、日本国内の種は環境省が作成しています。さらには都道府県作成の都道府県単位のものもあります。これをもとにして様々な法律によって生物が保護され、国と国の間での取引を規制する条約が「ワシントン条約」、日本国内での保護ややりとりを規制する法律が「種の保存法」になります。レッドリストは定期的に見直され、新しい種が加わったり、逆にリストから外されたりします。

絶滅危惧種の種類

一口に絶滅危惧種といっても、その中で危機の程度によって種類がわかれています。



絶滅 (EX:Extinct)

すでに絶滅したと考えられる種
タスマニアデビル、エゾオオカミ、ニホンカワウソ等

野生絶滅 (EW:Extinct in the Wild)

飼育下・栽培下でのみ存続している種。
シロオリックス、トキ(日本のみ)等

絶滅危惧IA類 (CR:Critically Endangered)

ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

絶滅危惧IB類 (EN:Endangered)

IA類ほどではないが野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

絶滅危惧II類 (VU:Vulnerable)

絶滅の危険が増大している種。

もしかしたら、「生き物が1つや2ついなくなっても、何か困るの?」と思う方がいるかもしれません。しかし、生き物はそれぞれ1種類で生きているわけではなく、複雑な関係で生きています。一つの種がいなくなると生態系のバランスがくずれてしまうことが考えられます。また、私たち人間もこの生態系の恩恵を知らず知らずのうちに自然から受けています。絶滅危惧種を守ることは生物多様性の保全は人間にとっても大切なことと考えることが出来るのではないのでしょうか?

旭山で飼育している絶滅危惧種たち

旭山動物園で飼育している動物たちで絶滅危惧種は何種類いるのでしょうか?

絶滅危惧IA類 (CR:Critically Endangered)

アムールヒョウ、アムールトラ、ボルネオオランウータン
シジュウカラガン、ワシミミズク(日本のみ)

絶滅危惧IB類 (EN:Endangered)

ユキヒョウ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー
シマフクロウ(IA類)、タンチョウ(II類)
クマタカ(日本のみ)

絶滅危惧II類 (VU:Vulnerable)

ホッキョクグマ、ライオン、ワオキツネザル、カバ
ヒシクイ、ミナミイワトビペンギン、フンボルトペンギン、オオワシ、オジロワシ(日本のみ)



ということで、20種類が絶滅危惧種でした。約2割の種類ということになります。

※世界版と日本版で評価が違う種や日本版にのみ載っている種は()に表記しています。

なぜ数を減らしているのか

では、絶滅危惧種、特に動物たちが数を減らしている理由は为什么呢?

主な原因としては、野生での生息地の減少(餌の減少)、人間による乱獲、気候変動などが考えられ、そのどれにも人間が関わっています。長い地球の歴史の中では多くの生物が進化と絶滅を繰り返してきていますが、今ほど多くの種が絶滅している時代はありません。

動物園で絶滅危惧種を飼育する意味

どうして動物園では絶滅危惧種を飼育しているのでしょうか?珍しいから?来園者が喜ぶから?確かに過去には、珍しい動物を飼育することを目的にしている時代もありました。しかし、現在では絶滅危惧種を含むほとんどの動物たちは動物園生まれの個体ですし、飼育している理由は他にあります。

それが「生息域外保全」という考え方です。絶滅危惧種が棲む野生環境を守ることによって、絶滅を防ぐとくみを「生息域内保全」と言い、それ以外の地域、つまり動物園などで飼育し保護する取り組みを「生息域外保全」と言います。もし、野生

で数が限りなく少なくなってしまった時に動物園などで飼育している個体を導入したり、一時的に捕まえて繁殖させることがあります。また、その時のために飼育技術や繁殖環境などの基礎知識を蓄積しておくことも大事な役割です。過去には日本ではトキやコウノトリが飼育下で繁殖した個体の野生復帰を行っており、現在もツシマヤマネコやライチョウなどで取り組みを行っています。

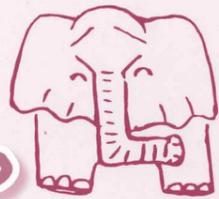
また、飼育展示している動物たちを見てもらうことによって、絶滅危惧種の現状を知ってもらうことも動物園にしか出来ない役割の一つです。



旭山のオオカミの森はかつて北海道にいて人間により絶滅したエゾオオカミについてのメッセージが込められています。



飼育研究レポート



～カバの百吉と旭子の成長と今後の展望①～

2017年度は旭山が開園して50年という節目ですが、未来の旭山50年を背負う存在となり、みなさんに親しまれる動物のペアになるのが、カバの百吉(オス、6才)と旭子(メス、5才)だと思います。

私は5年前に旭山動物園の飼育員として配属され、はじめての担当動物がカバでした。5年間いろんな出来事がカバにも私にもありましたが、カバを飼育して思うのは、辺りを見渡し警戒心もありテリトリー(縄張り)を大事に、一日一日をのんびりと過ごしている動物で、若くて元気な2頭のさらなる成長も楽しみで仕方ありません。今回はそんな2頭を紹介します。

百吉 オス、2011年5月28日生まれ
(2013年7月4日長崎バイオパークより来園)



好奇心旺盛で何にでも興味を示し、おっとりとしています。来園時は体重500kgで、まだ顔つきもこどもだった百吉。今や3倍の体重になりまだまだ身体は大きくなるでしょう。総合動物舎では隣のキリンに口を開けての挨拶や、頭を振りながら軽やかに走ることもありました。野生のカバは時速30~40キロで走るといいます。

2013年11月、かば館の屋内プールデビューでは、足を踏み外して深さ3mの深みに沈んでしまい溺れてしまうのではないかと心配しましたが、地面を蹴り上げ飛び上がるように浮上しました。あの時は、カバの今までのイメージが覆されハラハラドキドキの瞬間でした。さらに、成長とともに歯が伸びて大きい口を開けながら水槽を傷だらけにしました。とにかく四六時中囓っ

ていました。屋外プールに丸太を浮かべると、今度はくわえたり背中に乗せたりして遊んでいます。

5才頃からはオスのカバらしいまき糞が始まりました。まき糞は縄張りの主張と威嚇などの行動ですが、しっぽを小刻みに振っておしっこや糞をまき散らします。来園者と百吉の観察距離が近いのでみなさん注意してくださいね。おしりを向けたら離れて、という看板は、そういう意味のお知らせです。食べている餌の量もどんどん増えていますので、もっと広範囲にまき散らすと思います。

旭子 メス、2012年9月30日生まれ
(2014年8月25日メキシコ・サカンゴ動物園より来園)



落ち着きがあり愛らしく賢い性格です。来園時体重350kgでかわいい子カバの旭子。「旭子」の愛称は、旭山動物園で子宝に恵まれますように、と名付けてくれました。かば館の屋内プールでは百吉とは違って慎重にプールの中へ潜っていき、前あしを一生懸命に水かきしながら泳ぐ姿に安心し、癒やされました。一方、歯が伸びて百吉のように執着して囓る行動はありませんが、右下前歯の犬歯が縦にまっすぐに伸びず、横に根元から曲がっており、一生伸び続ける歯なので心配です。

5才になり身体も少しずつ大きくなり、メスの体型になってきました。そして、2016年12月頃から発情の兆候が認められ、一步一步大人になっていく様子が見られるようになり本当に楽しみです。

(カバ・タンチョウ担当・高井正彦)

特別企画



～飼育スタッフが坂東園長に聞く～



今回は、飼育スタッフが坂東園長に直接インタビューして、これからの旭山動物園について聞いてみました。



— よろしくお願ひします。まず、50周年を総括してどんな年でしたか？

「僕は50周年を機に、スタッフが客観的にこういう風にたくさんの方が来る動物園になったという本質的なものを改めて共有していければな、というのが強く思っていたところだったな。これが当たり前じゃない歴史を知っている人ってほんとになくなってきているから。なんで旭山にわざわざ来るんだろうっていう当たり前かもしれないけど、それを自分たちもちゃんと共有して、そのことを改めて来園者と向き合うこと。そして、動物園の動物たちとの向き合い方をもう一度共有して、これからの未来へのスタートにつながっていければというのが一番強い思いだった、かな。」

— 4月から51年目になりますけれども、今後のビジョンはどうでしょうか？

「結局、50周年を踏まえたならね、旭山にしかない動物はいなくて、例えば“カバ”っていう動物を観たくて旭山に来ているんじゃないと思う。うちにいる動物は、ほぼすべてみんなよその動物園で観れ

ちゃう。だからどういうものを求めて来ているのかっていうのは、自分たちそれぞれの中でしっかりと認識をもっていかなきゃいけない。

あと絶滅危惧種に価値があるわけではない。これはずっと自分は思っているの、人の残酷さの裏返しなわけだから。絶滅危惧種がどんどん価値が上がるんだったらこれからどんどん増えていく。絶滅危惧種を本当に大切にしていこうと思うのなら、身近にいる生き物たちのことをほんとうに大切に思うことが、結局地球上から消えようとしている生き物を守ることに繋がっていくわけだからさ。だから身近な生き物のすばらしさを伝えていかなければいけないと思うのさ。それはもうずっとベースなんだと思う、うちのね。

客寄せパンダを別に否定はしないんだけど、でもその価値観だけがずっと続くのであれば、やっぱり珍しいものを追っかけていくっていう、要するにコレクションの場からは出てかないと思うね。そうじゃない可能性を示したのが旭山だと思う。いわゆる日本人が思っている動物園観っていうのはちょっと違うところの指標、価値基準を持ったところ。その来園者が足を運んでよかったねと思う、その良かったねの内容で勝負しているんだよね。そのことをちゃんと認識して、お客さんに自分たちは何を還元できるのかっていうこと、何よりも来園者は動物を見に来ているわけで、その動物が生き生きするというのがどういうことなのか、何を具体化していくのか、ということの2本立て。」

— インタビューはこの後もまだまだ続きましたが、紙面の関係上今回はここまで。続きはいつかまたどこかで

(インタビューー 鈴木)

主なできごと

- 12月10日 「繋ぐのは命プロジェクト」によるパネルシ
ター&写真絵本読み語りイベント開催
- 13日 ペンギンの散歩開始
- 18日 企画展「わたしたちがみたボルネオ～ボル
ネオへの恩返し～」開始
- 27日 レッサーパンダ「縞縞(ガオガオ)」日本平動
物園へ搬出
飼育勉強会
- 29日 アムールヒョウ双子命名式



- 1月23日 タンチョウ舎展示再開
- 24日 飼育勉強会
- 2月 3日 自然観察会「スノーシューをはいて雪山探
検」を開催
- 4日 自然観察会「エゾシカが増えてどうなった?
現役ハンターと歩く自然探検」を開催
- 7～12日 雪明かりの動物園開催
- 10・11日 旭山動物園50周年・名古屋市東山動物園
80周年記念連携イベント開催
- 15日 レッサーパンダ「友友(ようよう)」安佐動物
公園へ搬出
- 25日 絵本専門士による絵本ライブを開催
「2017ボルネオスタディツアー報告会」開催

50周年イヤー終了、次の50年へ突入!

旭山動物園開園50周年という大きな節目の年度も無事に終えることができました。一年を通して様々なセレモニーや記念イベントなどが行われましたが、皆さん楽しんでいただけましたか?この節目の年に50年の歴史の重みを感じながら動物園で働くことができていること、たくさんの方々に来園していただいていることに、職員一同改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、お祭りムードも一段落しましたが、旭山動物園は次の50年に向けて動き出していきます。休んでいる暇はありません。動物達のため、来園者のため、未来の子ども達のためにも、挑戦を続け歴史を重ねていければと思っています。



編集後記

2018年の冬は道内各地で積雪が例年より多かったですね。我々にはやっかいもの扱いされてしまう雪ですが、多くの観光客の方達は雪の中に飛び込んでみたり、写真を撮るために撮っていたりと、とても楽しそうでした。雪と寒さの中で暮らす動物達も旭山動物園の魅力のひとつだと思いますが、何事も「ほどほど」がいいですね。(大内)

最新情報はここでチェック!!



公式HP

Facebook

Twitter

Instagram

モユク・カムイ No.97 平成30年4月28日

- 発行所/旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行人/坂東 元 ●表紙絵:中田 真一
- 編集/丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平
佐賀 真一・中田 真一
- 印刷/株須田製版: 〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

平成30年4月1日現在

- 哺乳類 41種・285点
- 鳥類 58種・331点
- は虫類 5種・17点
- 合計 104種・633点